

明治期以降曹洞宗人物誌（九）

川口 高風

はじめに

本稿は「愛知学院大学教養部紀要」第六十三巻第三号（平成二十八年三月）に所収の拙稿「明治期以降曹洞宗人物誌（八）」の続編である。全項の人物誌が完成した時は『近代曹洞宗人名辞典』と題して刊行する予定で、一日も早い完成をめざし精進している。

凡例

〔見出し項目〕

- 一、収録人物は明治期以降に宗門の発展に活躍した人物で、その出典は「明教新誌」「宗報」「曹洞宗報」を中心に、明治、大正、昭和期以降に刊行された著作や各種雑誌、新聞などから採取した。
- 二、見出しの人名は当時用いた旧漢字とした。事歴の本文は新字体を用いたが、旧字体を使用したものもある。

- 三、見出しの項目はかな見出しを太字で示し、次に漢字を掲げた。
- 四、かな見出し項目は姓と名の間にダッシュを挿入して読みやすくした。

〔見出し項目の配列〕

- 一、配列は五十音順の予定であったが、「い」以降は完成した原稿の順序とした。そのため本稿では「と」「わ」の項をとりあげた。
- 二、同音同字の漢字項目は時代順（没年順）に配列した。
- 三、同音異字の漢字項目は第一字目の画数の少ないものからの順とした。また、第一字目が同画数の時は第二字以降の画数の少ないものから配列した。

〔本文の記述とその順序〕

- 一、本文の記述は敬語、敬称の使用を避けた。
- 二、収録にあたっては居住地、号、字、生年月日、父母、誕生地、受業師、本師、学歴、僧堂安居歴、宗門役職歴、社会的職歴、著作類、示寂（没）年月日、行年、参考文献の順とした。不明な場合は記していない。
- 三、本文は基本的に、編著者が直接、居住地へ問い合わせを行った返書（調査用紙）にもとづいて執筆した。それ以外に参考とした文献は末尾に掲げた。
- 四、伝記中の元号の一番最初（初出）に西暦を入れた。ただし、伝記中の生没年には西暦を入れない。
- 五、寺院の所在地が郡の場合は県を入れ、市の場合は県を省略した。なお、平成の大合併による新市町村名への変更を行っていないものもある。
- 六、居住地は歴住の順序通りでないものもあり、何世か不明な場合は記していない。

と

どいーかんぜん 土井寛禪

ー 明治四十四年(一九一三)

山口市瑞雲寺二十四世。号は大鈍。明治四十四年八月二十六日に示寂した。

どいーせぎぜん 土井積善

明治二年(一八六九)ー昭和二十二年

(一九四七)

黒部市吉祥寺四世、飛弾市徳翁寺。号は行修。明治二年十月十七日に富山県中新川郡南加積村の福島宗吉の五男に生まれる。受業師は大做円洲、本師は関歌参。大法嶺外、竹内隆道に参随した。明治二十八年(一八九五)から二十九年まで比叡山大学、二十九年から三十一年まで曹洞宗立大学院に学んだ。大本山巡回布教師、富山県宗務所長、宗会議員を務めた。吉祥寺を月法幢地に昇格させ、本堂などを移転再建した。昭和二十二年二月十九日に七十九歳で示寂した。(『歴位牌誌』)

どいーぜんかつ 土井漸活

安政四年(一八五七)ー大正十一年(一

九二二)

山梨県南巨摩郡南明寺四十七世、松阪市妙泉寺十八世、中央市法星院、藤岡市興禅院。号は修学。安政四年三月十八日に尾張国鳴海駅脇本陣の土井弥三右衛門の孫勇吉の三男に生まれた。受業師は慧海漸丈、本師は仏海禅道。十八歳で初めて尾張に行き、明治八年(一八七五)に渡辺實雄、西野石梁、白鳥鼎三、鷹林冷生などの老宿に歴参し、臨済宗の徳源寺の門下にも参随した。その後、法星寺に住持し、二十六年には妙泉寺に住持した後、曹洞中学林学監となり、三十六年には監事を歴任した。公選によって曹洞宗議会議員となっており、その他、両本山布教師も務め、布教伝道に尽くした。大正十一年十一月四日に六十六歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』)

とうがくーほうしゅう 洞覚方宗

文化十三年(一八一六)ー明治三十六年

(一九〇三)

千葉県長生郡全應寺十七世、千葉県長生郡大林寺三十一世、木更津市東泉寺。受業師は正宗、本師は達山。明治三十六年九月二十日に八十七歳で示寂した。

とうしゅうーかつりょう 棟秀活梁

天保四年(一八三三)ー明治四十三年

(一九一〇)

さいたま市福厳寺十八世、越谷市勝林寺二十二世。天保四年十月八日に越谷市新方の大貫忠蔵の長男に生まれた。本堂改修、庫裡及び蔵などを新築し、寺院環境整備に尽力した。明治四十三年十月十七日に七十八歳で示寂している。(『過去帳』世代記)

とうじょうーふうれい 東條風鈴

明治二十二年(一八八九)ー昭和二十八

年(一九五三)

小山市龍昌寺二十六世、南房総市延命寺。栃木県下都賀郡間々田町に生まれる。戦時中に布教師として中国へ渡り伝道している。昭和二十八年十一月四日に六十四歳で示寂した。

とうはーこりん 洞派湖鱗

嘉永元年(一八四八)ー昭和四年(一九

二九)

高山市栄鏡院、塩尻市長興寺二十二世、号は啄水。本師は洞派量海。嘉永元年一月一日に長野県諏訪郡小川村の牛山五左エ門の二男に生まれる。天治元年(一八六四)、

尾州大光院の大薩に参随し、後に尾州護国院の縁三に参随した。高山の旧城跡に保寿寺を建立し、布教伝道に努めた。明治二十

六年(一八九三)に長野県第二号宗務教導取締に就任し、地方の教学発揚に尽力した。明治三十五年(一九〇二)に高祖大師大遠忌の特派専師に任ぜられる。四十一年一月三十日に本堂、庫裡などが烏有に帰したため、大正二年(一九一三)に庫裡を再建した。昭和四年八月十三日に七十七歳で示寂している。(『曹洞宗名鑑』『長興寺史』『青松山長興禅寺寺史』)

とうはーぶんじょう 洞派文情

嘉永二年(一八四九)ー大正八年(一九

一九)

塩尻市興龍寺十九世、塩尻市長興寺二十三

世。号は風外。嘉永二年に塩尻市宗賀平出の平出行雄の子として生まれた。受業師、

本師は洞派量海。大正八年六月二十日に七十一歳で示寂した。(『青松山長興禅寺寺史』)

とうやーどりりゅう 東谷洞龍

明治三十五年(一九〇二)ー平成五年

(一九九三)

田村市東円寺十四世。号は大雲。明治三十五年八月十七日に福島県田村郡常葉町関本岡内に生まれる。本師は三村洗耳。常葉高等小学校を卒業した。福島宗務所々会議員、第十教区長、梅花講長、總持寺地方副監院、長松院参禅道場後堂、總持寺大授戒会、御征忌両班寮々監などを務めた。常葉町公民館長、役場戸籍係長、地区防犯協議会副会長、福祉協議会理事、遺族会顧問、交通安全協会顧問、県保護協会員などを務め、茶道教授、華道、盆景家元師範代でもあった。著作として『常葉町史』などを編纂している。平成五年一月十六日に九十二

歳で示寂した。(『洞門龍象要覽』『曹洞宗現勢要覽』)

とおやまーみょうかん 遠山明鑑

明治十二年(一八七九)ー昭和二十六年

(一九五二)

静岡市法蔵寺十八世。号は大機、楽々斎華翁。受業師、本師は増田瑞明。明治十二年五月二十日に静岡市鷹匠町の遠山景寛の子に生まれた。明治二十三年(一八九〇)、

静岡高等小学校入学、三十一年五月に麻布曹洞宗東京高等中学林へ入学、大正十一年(一九二二)には不老閣を新築し、本堂や他の諸堂を改築している。昭和九年(一九三四)五月十五日には、静岡県第一曹洞宗務所長、二十一年三月、曹洞宗宗会議員、方面委員、布教師委員、赤十字社終身社員、遠山流第四世家元で、静岡精華高等学校の生花教授なども務めた。昭和二十六年二月六日に七十一歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『法蔵寺史』)

とがさわりようじゆん 斗ケ沢良淳

天保元年(一八四一)―明治三十一年

(一八九八)

盛岡市長松寺十七世、岩手県紫波郡実相寺七世。号は泰應。盛岡市の斗ケ沢忠之進の三男に生まれる。明治三十一年十月十三日に五十七歳で示寂した。(『過去帳』)

とがのーどうご 梅野道悟

―昭和八年(一九三三)

柏崎市普広寺三十五世、五泉市正雲寺十七世。号は大法。長岡市今朝白町の梅野喜代治の子に生まれる。曹洞宗両大本山布教師、地方布教部委員長を務めた。昭和八年三月二十六日に示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

ときーざいこう 土岐随孝

弘化二年(一八四五)―昭和四年(一九

二九)

福井県三方上中郡正明寺十五世、小浜市福泉寺一世、福井県三方上中郡向陽寺三十八世。号は祖順。弘化二年十二月八日に福井

県三方郡三方町三方の榎本小七の四男として生まれる。受業師は珉随、本師は廓峯大

然。安政六年(一八五九)夏に空印寺常住会に入衆し、文久二年(一八六二)より、

江戸駒込栴檀字寮に修学した。三年十月一日に浅草の潮江院に安居し、元治元年(一八六四)七月十六日に江戸橋場の繪泉寺に安居した。慶応二年(一八六六)二月十日

には川越の孝頭寺に安居し、七月二十日に武蔵国大成村の普門院に安居した。明治十

四年(一八八二)十一月には曹洞宗第二次議会東京開設につき上京し、翌十五年三月

には支局会議々案審議係、庶務及び会計主任を命ぜられ、八月十五日に福井県第七号教会々頭に任命される。十八年五月五日に

は両本山貫首より護法会係を任命され、二十二年十一月一日より小浜曹洞宗中学校監に任命された。同年四月、尊皇奉仏各宗

大同団委員に任命され、二十三年四月十七日に小浜監獄署教誨師に任命された。二十

五年六月二日には福井県第二号支局会計整理員に、七月二十日には革新同盟会委員、

七月二十六日には両山協和護持会委員を嘱

托された。二十八年二月二十七日には支局

会議々員に当選し、三十年十月二十七日に永平寺吉祥講宿坊建築委員、三十一年四月

二十五日に仏教婦人会幹事、四月二十八日には支局会議々員、十一月二十日に高祖大

師御遠忌管弁に付、翼賛委員を依嘱された。三十四年一月二十八日には支局会議々

員に当選し、二月十九日に第三号分局長、八月二日に永平寺より遠敷、大飯両郡特別

寄附勸募委員、十二月二十一日には支局請願委員に任命された。三十五年三月二十七日

日には西有穆山管長より組長を任命され、三十六年十一月二十八日に吉祥講整理委員

を嘱托せられた。四十年十一月十五日に宗会議員に当選した。大正三年(一九一四)

三月十九日には管長より所長心得に特撰され、また、總持寺貫首より勸募委員長に任

命され、四月一日には布教部委員長に就いた。四年十二月五日には福井県福田会小浜

支部委員を嘱托され、五年十一月一日より三日まで永平寺の慶弔式礼中に単頭を、七年五月十三日には寺院級階査定会委員を、八年八月四日には地方布教部委員長に当選

している。十年四月二十一、二十二日には、永平寺慶弔式礼中僧堂副都管に命ぜられ、十一年七月二十七日には永平寺大祠堂改築創立会協議員に嘱托された。十二年四月十三日には正明寺住職を辞任し、昭和四年八月二十一日に八十歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『随孝祖順和尚之履歴概要』)

ときおーそみよう 釈尾祖明

元治元年(一八六四)ー昭和十三年(一九三八)

埼玉県南埼玉郡宝光寺十六世、白岡市興善寺二十七世。号は絶方。元治元年三月十日に南埼玉郡菖蒲町の斉藤家に生まれる。受業師は馬場祖中、本師は岡安靈鳳。曹洞宗大学林を卒業し、埼玉県曹洞宗宗務所長を歴任する。昭和十三年十二月十三日に示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

ときやまーちせん 時山智仙

ー昭和六年(一九三一)

横須賀市大松寺二十一世。号は使得。周防

国佐波郡藤木邑の山本善次良の四男として生まれる。受業師、本師は却壽。昭和六年十月二十二日に八十四歳で示寂した。

とくたけーぶんじ 徳武文爾

明治二十一年(二八八八)ー昭和三十九年(一九六四)

盛岡市報恩寺三十五世、長野市乾徳寺、秋田市補陀寺。号は玄秀。明治二十一年九月二十三日に長野県埴科郡西条村の徳武家に生まれる。受業師、本師は小根山随雲。明治四十一年(一九〇八)三月に県立長野中学校を卒業後、大正十二年(一九二三)に乾徳寺に首先住職、昭和四年(一九二九)から十年間補陀寺に晋住し、十六年には總持寺後堂に就任、その後、能登の總持寺祖院の西堂にも就任した。六十二歳にして報恩寺に昇住し、報恩寺僧堂の堂頭となった。他にも名古屋市覚王山日暹寺副住職、同覚王山選仏場主任師家、駒澤大学講師、秋田刑務所特別教誨師、秋田師範学校専攻科講師、東京吉祥寺女子体育専門学校講師、岩手県保護院顧問なども務めた。三十

五年三月十七日に周辺の綿工場の出火の飛び火によって本堂などが灰燼に帰した。やがて本堂再建を発願し、見事に達成した。三十九年五月三日に七十六歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『洞門龍象要覧』『報恩寺概史』)

とくやまーかんぜん 徳山関禅

文政八年(一八二五)ー昭和二十六年(一九五一)

東京都道場寺十四世。号は得之。文政八年に防州都濃郡富田土井に生まれた。受業師は雉常、本師は大志道仙。嘉永五年(一八五二)から万延元年(一八六〇)まで東京府下浅草の東岳寺の東泉について漢学などを学ぶ。道場寺に家塾(寺子屋)を開いた。明治二十六年二月二十六日に示寂している。(『當山過去帳世代記』『勝光院史文化財総合調査報告』『練馬区教育史』資料1 第二卷)

とくやまーどうすい 徳山洞水

明治十六年(一八八三)ー昭和三十九年

(二九六四)

平戸市瑞雲寺四十一世。号は雷聞。明治十六年十二月十日に長崎県杵岐郡箱崎村に生まれる。本師は徳山鳳瑞。長崎市皓台寺、天草市東向寺、永平寺の各僧堂に安居する。昭和十一年(一九三六)、永平寺高祖大師報恩授戒会、十二年總持寺御忌の焼香師を務める。管内布教部委員、寺院級階査定会地方調査会員、宗務所会議員を務め、十七年、宗会議員に当選し、参事会員となる。その他、県仏教聯合会郡支部長、大日本宗教連盟県支部北松浦郡分会長、民事特別調停委員などを務めている。昭和三十九年九月二十日に八十二歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『洞門龍象要覧』)

とくやまーはくりゆう 徳山博隆

明治四十一年(一九〇八)ー平成五年

(二九九三)

佐賀市苗蓮寺二十二世、佐賀県神埼郡用音寺。号は風外。明治四十一年八月五日に長崎県平戸市鏡川町の徳山洞水の二男として生まれる。受業師は徳山鳳瑞、本師は徳山

洞水。日本大学政治学科を卒業し昭和七年

(二九三二)より十年まで長崎市皓台寺に安居した。教区長、教化主事、所会議長、布教委員などを務め、民生児童委員、保護司、佐賀郡民生委員会会長、嘉瀬公民館長、佐賀市社会教育主事、郡公民館連絡協議会長、県公民館連合会副会長、九州公民館連合会理事、監事なども務めている。平成五年十二月二十二日に八十七歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』)

とくやまーほうざい 徳山鳳瑞

ー

南島原市智性院二世、平戸市瑞雲寺四十世。号は徳山。布教師として活躍し有名であった。瑞雲寺において、多くの弟子を打出し、現在の瑞雲寺の基礎をつくった。

(『現代仏教家人名辞典』)

とくやまーりようこ 徳山了古

ー明治三十三年(一九〇〇)

富山市徳林寺二十一世、高岡市瑞龍寺二十世、富山市西光寺。号は閑山。仏慈講を

創設し、布教伝道に尽力した。その説教は宗門第一といわれた。明治三十三年三月十日に示寂した。(『洞上高僧月旦』『宗報』第七十九号)

とくやまーれいのう 徳山靈能

明治二十三年(二八九〇)ー昭和三十五年(二九六〇)

長浜市洞寿院五十一世、長浜市正源寺八世。号は棟岳。岐阜県徳山村に生まれる。

昭和二十五年(一九五〇)に正源寺より洞寿院へ転住しており、永平寺の待真を務めた。数十年にわたり仏教青年会の育成に務めており、昭和三十五年十一月三日に洞寿院において七十歳で示寂した。(『傘松』第二七二号)

とぎわーしゅんどう 戸沢春堂

天保九年(一八三八)ー大正四年(一九一五)

岐阜県安八郡榮春院、岐阜県安八郡光源寺、福井県吉田郡吉峰寺二世、福井市孝顕寺三十二世。号は鉄叟、養巖。天保九年に

大垣藩士戸沢家に生まれた。受業師、本師は鴻雪爪、高岡市の瑞龍寺の橘仙に参随した。永平寺監院を務めており、明治の末期、福井市周辺は絹織物の産地であり、豊川市の妙嚴寺より吒枳尼天尊像を勧請して境内に祀った。永平寺貫首選挙に春堂を立てようとした時、春堂の実弟海軍中将（名は不詳）は当時の金額で三万円を選挙運動費用として拮出した。しかし、春堂は立候補せず、「儂は管長にならねばならぬ程の罪は犯していない筈」といい、金銭は受けとらず海軍中将を帰させた。大正四年六月八日に七十九歳で示寂した。（『洞上高僧月旦』「傘松」第四九四号）

としがみーきんこう 壽上金光

明治九年（一八七六）ー昭和二十八年（一九五三）

会津若松市善龍寺十九世。号は鶴琳。明治九年一月八日に福島県河沼郡金上村に生まれた。本師は加藤禅隆。福島県第三号宗務支局第九号正幹事、第三号支局開設会議常置委員、宗務支局庶務、第七宗務所第二組

長、第七宗務所長、昭和五年（一九三〇）宗会議員、第三宗務所会議員、地方布教部委員長などを務め、地方布教の改善に尽くした。昭和二十八年八月二十九日に七十九歳で示寂した。（『現代仏教家人名辞典』『曹洞宗現勢要覧』）

とすーえつざん 鳥栖越山

文政五年（一八二二）ー昭和九年（一九三四）

笠間市鳳台院二十六世、東京都昌林寺。文政五年に肥前熊本藩の鳥栖大左衛門尚獄の息子として生まれる。本師は壽山。十四歳の時、長門で壽山に就いて出家、鳳台院に三十年間住職を務め、昌林寺へ転住した。祖父が百十三歳、父が百歳、母が九十五歳という長命者の多い家であったところから、越山自身も百十歳という長命で、長寿の秘訣を語っている。昭和九年三月二十八日に百十歳で示寂した。（『大乘禪』第八巻第三号）

とだーぎさん 戸田義参

明治九年（一八七六）ー昭和十三年（一九三八）

浜松市西来院二十九世。号は實應。明治九年に豊橋市町畑町の鈴木彦六の三男に生まれる。受業師は武田金牛、本師は戸田昂建。明治二十七年（一八九四）に旧制中学を卒業し、同年より三十年まで新城市の泉龍院に安居し、三十二年より昭和十三年（一九三八）まで西来院住職を務めた。三年、徳川家康公正室築山御前三五〇回忌を営み、御前の生涯を世に紹介する。弟子に實学義鳳、普学萬反、巨海賢隆などがある。著書に『築山御前考』があり、昭和十三年十一月二十七日に六十二歳で示寂した。（『現代仏教家人名辞典』）

とだーごゆう 戸田吾雄

安政五年（一八五八）ー昭和四年（一九二九）

徳島市大匠寺、徳島市国分寺十五世、須賀川市長祿寺三十九世。号は獨峰。安政五年九月九日に徳島県海部郡奥浦に浅川廣吉の

三男として生まれた。受業師、本師は戸田惟仙。百谷奇雲、久我環溪、涛聴水らに参随した。明治十四年（一八八一）、曹洞宗

専門本校に入学し、卒業後の十五年十一月、山形県第二号専門支校教師、十九年二月、徳島県専門支校教師を務め、二十八年に自坊に曹洞宗僧堂を開設し、二十九年には準師家となる。三十四年に両山布教師となり、各地を巡教した。三十九年、東北三県が凶作となり、福島県の各宗を代表して救済事業に奔走し、慈善事業にも尽力した。四十三年に福島県各宗連合仏教慈善会を起し、四十四年三月には師家となり、育英に尽力した。また、福島県第三管内布教部委員長となり、大正四年には宗議会議員となった。昭和四年九月十九日に示寂した。〔曹洞宗名鑑〕『現代仏教家人名辞典』『天桂禪師靈桶陽松庵史』

とだーゆうざん 戸田雄山

1

いわき市蘭秀寺二十九世。号は鐵道。福島県磐前郡平町字白銀町の戸田有一の弟であ

る。本師は実山雄道。在住中に裏山の崩壊による本堂の倒壊と焼失があり、本堂の再建を行った。

とどろきーかんじゅ 轟 観樹

1 明治八年（一八七五）

長野市大林寺二十二世、大町市大沢寺三十六世。号は大享。長野県北信濃に生まれる。明治四（一八七二）、五年頃、大町市の大沢寺に転住した。八年八月十九日（七月二十七日）に示寂した。〔教導職職員録〕

とどろきーたいりよう 轟 泰量

弘化三年（一八四六）1 明治三十五年

（一九〇二）

群馬県吾妻郡雲林寺二十六世。号は巨海。弘化三年四月八日に長野県上水内郡大豆嶋村の轟四郎右エ門の二男に生まれる。受業師、本師は無角泰牛。明治三十五年九月八日に五十六歳で示寂した。

とねがわーもくどう 利根川黙道

安政元年（一八五四）1 明治三十八年

（一九〇五）

糸魚川市直指院二十七世、糸魚川市長久寺五世。号は孝運。安政元年三月十五日に新潟県西頸城郡能生町大字柱道に生まれる。受業師、本師は高嶽玄龍。明治三十八年一月十六日に示寂した。

とのかいーみほう 殿界美芳

明治二十八年（一八九五）1 昭和五十五年

（一九八〇）

加古川市長松寺十二世、神戸市勝明寺十四世。号は蘭溪。明治二十八年十一月一日に兵庫県三木市与呂木の殿界喜代太郎の三男に生まれる。受業師、本師は吉津道勇。吉津博涯に参随している。大正五年（一九一六）三月に曹洞宗第三学林を卒業しており、教区長、布教部委員、兵庫県第一宗務所長、県仏教会理事、加古郡仏教会長、方面委員、民生委員、司法保護委員、司法保護司、児童福祉議会役員などを務めた。昭和五十五年四月二十九日に八十五歳で示寂

した。〔洞門龍象要覧〕

とばせーほどう 鳥羽瀬保道

明治二十九年（一八九六）―昭和五十七年（一九八二）

熊本県天草郡国照寺十九世、天草市観音寺二十二世、熊本市大慈寺九十五世。号は大活。明治二十九年二月二十二日に熊本県天草郡五和町の鳥羽瀬団次の三男として生まれる。受業師は玄道通外、本師は大孝良運。明治四十五年（一九一二）に熊本県私立精華専科中学を卒業し、大正六年（一九一七）四月から十五年五月まで永平寺で修行した。宗議会議員を務めた後、昭和二十五年（一九五〇）六月には開教師に補任され、北米サンフランシスコ桑港寺に駐在、三十年四月二十五日に北米開教師総監となる。書道弘法流第四十九代家元で、独特の書は雑誌にも紹介され人気を博した。五十七年二月二十四日に八十六歳で示寂した。

〔洞門龍象要覧〕「傘松」第四六二号

とびーえんじゅん 飛 圓順

慶応二年（一八六六）―昭和十五年（一九四〇）

会津若松市常徳寺、喜多方市示現寺四十三世。号は道網。慶応二年十月十日に京都府竹野郡下宇川村の浄土真宗浄念寺の飛礼順の二男に生まれた。受業師は三野全調、本師は北村玄明。但馬の長松寺の秦慧芳に参随し、明治十六年（一八七八）十月に専門支校に入り卒業後、三十五年両本山布教師となり各地を巡回した。四十一年に石川素童に見こまれて永平寺単頭より總持寺再建本部総務として迎えられた。四十一年より大正三年（一九一四）迄、總持寺特派使として全国を巡回し、再建費の勸募に従事し、同年には總持寺副監院、曹洞宗教学部長となった。昭和四年（一九二九）から三年間、京都へ研鑽に出かけたのを機に、南禅寺、紫野の大徳寺、嵯峨の天龍寺など臨濟宗の代表的巨刹及び老宿を拝問して禅機の風光に接した。九年には總持寺祥雲閣に後醍醐天皇六百回御遠忌の事務局の総長に任命された。詩偈にも長じており、總持寺

西堂であった十五年七月十一日に世寿七十五歳で示寂した。〔曹洞宗名鑑〕『現代仏教家人名辞典』「傘松」第一五五号「跳龍」第三三一号

とまつーこうえん 戸松孝圓

元治元年（一八六四）―昭和十七年（一九四二）

新発田市浄国寺二十四世、新発田市蓮華寺十六世、新潟市洞泉寺。号は大学。元治元年に新潟県豊浦町荒町の戸松市郎兵衛の子として生まれる。明治三十七年（一九〇四）に浄国寺より蓮華寺へ転住し、大正六年（一九一七）に退隠した後、十二年に羽前船渡村の洞泉寺へ転住した。大正十四年四月、洞泉寺より再度蓮華寺へ転住している。昭和十七年四月一日に七十九歳で示寂した。

とみざわーぎちよう 富沢義暢

明治十六年（一八八三）―昭和三十八年（一九六三）

福島県石川郡繁松院。明治十六年七月二日

に福島県相馬郡中村町に生まれる。本師は

宮井一邦。明治三十九年（一九〇六）に繁

松院住職に就き、宗務所弁務、教区長、級

階査定地方委員、宗務所会議員、鍊成大会

参務、宗務所副所長などを務める。町選挙

粛正委員、町振興会委員、司法保護委員、

同会常務委員、町常会委員、学務委員、民

生委員、青少年輔導会副会長、防犯協定会

長、公安委員長、成人保護観察所常務委

員、司法保護司、成人司法保護司協議会会

長などを務める。昭和三十八年五月五日に

八十一歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

とみざわーりゅうどう 富沢隆道

明治十一年（一八七八）―昭和四十一年

（二九六六）

鳴川市宝壽院十六世、館山市龍淵寺二十二

世、南房総市天徳寺十八世。号は興覚。千

葉県安房郡三芳村御庄に生まれる。曹洞宗

大学林を卒業し、教区長などを務めた。昭

和四十一年九月九日に八十八歳で示寂し

た。

とみたーじつさん 富田実参

―明治四十五年（一九二二）

唐津市恵日寺三十五世、唐津市長得寺十六

世。号は活堂。受業師、本師は洞水活山。

佐賀第四宗務所所長、道元禪師六百五十回

大遠忌の時、永平寺に維那として随喜して

おり、恵日寺を再建した。明治四十五年二

月十九日に五十九歳で示寂した。

とみたーしょうがい 富田象外

―大正二年（一九一三）

熊本市大慈寺八十九世、熊本市静安寺十二

世、熊本市鷲林寺二十五世。号は典策。頽

廃せる大慈寺の財務を整理し、山門の再建

と境内の耕地整理を行い、同寺の財務を鞏

固ならしめた。大正二年一月十日に八十一

歳で示寂した。（『肥後名僧伝』『東禅寺と

現住藤岡恵泉師』）

とみながーせきりゅう 富永石龍

万延元年（一八六〇）―昭和二十一年

（二九四六）

山口県熊毛郡龍泉寺二十世、山口県熊毛郡

大泉寺、柳井市湘江庵。号は起雲。万延元

年に山口県熊毛郡室積町の富永新三の三男

に生まれる。受業師は巨海玄龍、本師は大

雄金山。明治十一年（一八七八）に阿川断

泥に参随した。十二年に山口県曹洞宗専門

支校に掛籍し、十四年に東京曹洞宗専門本

校に入学、十七年に卒業した。十八年に永

平寺で転衣し、三十五年夏に法幢を建て、

四十一年春に龍泉寺を董した。十九年に山

口県曹洞宗専門支校教師として教鞭を執

り、布教部委員長も務めて布教伝道に尽し

た。昭和二十一年二月十九日に八十七歳で

示寂した。（『曹洞宗名鑑』）

とみながーたいほう 富永大芳

天保三年（一八三二）―大正三年（一九

一四）

福津市祥雲寺二十六世、福岡県糟屋郡竜興

寺十二世、福岡市金後寺十二世。号は桶

道。天保三年一月二日に福岡県企救郡藤崎

村の高野種吉の長男に生まれる。受業師、

本師は祐国。大正三年十二月十六日に八十

三歳で示寂した。

とみながーどうゆう 富永道雄

明治四十三年(一九一〇)ー昭和六十三年(一九八八)

薩摩川内市福昌寺七十三世。号は無覚。明治四十三年十一月十一日に鹿児島県川内市の宝亀観道の四男に生まれる。受業師、本師は大光観道、沢木興道に参随している。駒澤大学を卒業し總持寺僧堂に安居。鹿児島県宗務所長になり、川内市市議会議員を務める。昭和六十三年五月十四日に七十七歳で示寂した。(「傘松」第五三八号)

とみやまーぜんぼう 富山全鳳

天保十二年(一八四一)ー大正四年(一九一五)

東京都永見寺二十六世、東京都玉泉寺二十二世、東京都長童寺二十世、東京都慈光院二十六世。号は富山。三河で生まれる。本師は葛西泰眠。大正元年(一九一三)に曹洞宗宗会特選議員に任ぜられ、三年頃には東京府曹洞宗第四宗務所長に就く。弟子の富山祖英は『正法眼蔵啓迪』の筆録者である。大正四年十一月二十六日に七十四歳で

示寂した。(『曹洞宗名鑑』『永見寺法類規則及名簿』)

とみやまーそえい 富山祖英

明治七年(一八七四)ー昭和四年(一九一九)

東京都永見寺二十八世、桐生市鳳仙寺二十九世、東京都慈光院二十八世、東京都玉泉寺二十三世。号は俊峯。明治七年五月十五日に生まれる。本師は富山全鳳。西有穆山に参学し、浄土宗の勤息義成、大鹿愍成に唯識を参学する。筆記録に『正法眼蔵啓迪』『坐禅用心記啓迪』『永平家訓私記』などがあり、『正法眼蔵啓迪』は法嗣の榊林皓堂により刊行された。昭和四年二月五日に五十四歳で示寂した。(『正法眼蔵啓迪』序文、『永見寺法類規則及名簿』)

とやまーりゆうせい 外山柳性

明治十二年(一八七九)ー昭和三十八年(一九六三)

愛知県知多郡心月齋二十三世。号は恵学。明治十二年四月二十八日に名古屋市南桑名

町に生まれる。本師は外山養鄰。早稲田大

学英語科を卒業し、宗務所管内布教部委員長、宗務所長、教区長などを務め、昭和九年(一九三四)に宗会議員に特選され、十三年に公選される。十五年に宗制度調査会委員、十九年に永平寺慶弔会副総監、二十一年愛知高等尼学林顧問、二十二年永平寺大遠忌営繕部長、二十四年永平寺顧問、高祖大師大遠忌社会教化運動本部参与を務め、その他に県仏教会知多支会社会教化員、町経済更生委員会委員、知多仏教会理事、仏教聯合会愛知支部理事長、町青年団々長、県社会教育委員、仏教大博覧会相談役なども務めた。昭和三十八年四月二十五日に示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『洞門龍象要覧』)

とよおかーりょうしん 豊岡長振

文久元年(一八六一)ー大正十五年(一九二六)

印西市迎福寺二十二世、印西市円蔵寺二十三世。号は宏学。文久元年七月十三日に千葉県印旛郡木植村笠神の岩井徳平の長男に

生まれる。受業師、本師は豊岡良瑞。曹洞宗専門支校を経て、曹洞宗大学を卒業し、曹洞宗宗務院主事、千葉県第二宗務所長、公選議員、地方布教部委員長を務め、明治四十三年（一九一〇）より六合村の各宗寺院とともに慈善会を組織し、貧民救助、孝子節婦の表彰、不就学児童の保護、地方布教伝道の改善などを実行した。大正十五年九月十三日に六十六歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』）

とよくにーぎこう 豊国義孝

慶応元年（一八六五）ー昭和二十九年（一九五四）

前橋市長善寺二十六世。号は覚堂。慶応元年二月二十五日に群馬県多野郡下日野の興春寺住職田川義水の長男として生まれた。受業師、本師は豊国洞伝。明治十九年（一八八六）に県知事の認可を得て寺内に済美塾を開き、二十一年には東京の仏教布教師講習で大内青巒を知り、大内主宰の「江湖新聞」記者になる。二十九年には「上野新聞」の記者となり、三十八年には「上野

日々新聞」の主筆となる。大正二年（一九一三）「上毛郷土史研究会」を創立し主宰する。五年、「上毛及上毛人」を発行し、昭和二十四年（一九四九）には「上毛百人一首」などを出版する。二十五年に第一回岡崎文化賞を受賞する。二十九年二月四日に世寿八十九歳で示寂した。

とよしまーしゅんがく 豊島俊学

嘉永三年（一八五〇）ー昭和四年（一九二九）

五泉市願成寺二十五世、五泉市安養寺二十五世。号は佛山。嘉永三年八月三日に新潟県五泉市羽下の豊島安平の長男に生まれる。受業師、本師は亀山秀桓。曹洞宗大学林を卒業し、豊川市の妙巖寺に安居する。宗務所長を務めるなど徒弟十七人を養成した。大正十四年（一九二五）には願成寺の堂宇が焼失したため、昭和三年に再建し、四年九月十三日に七十八歳で示寂した。

とよたーみょうかん 豊田明貫

安政三年（一八五六）ー昭和十三年（一

九三八）

徳島県勝浦郡黒松寺七世、徳島市丈六寺二十八世。号は洞玄。安政三年四月二日に阿波国勝浦郡福原村の天児映の三男として生まれる。受業師、本師は洞貫玄道。明治六年（一八七三）に東都合併教院に修学し、九年に駒込吉祥寺越後寮に掛錫。十五年に専門本校に入学し、卒業する。二十九年、『統洞上聯灯録』編纂材料収集委員に任命され、徳島県宗務所長、免因保護聯合会評議員を務め、その他、阿波国養老院を丈六寺に創設し、阿波仏教救誓会長も務めている。昭和十三年五月三日に八十三歳で示寂した。（『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『黒松寺歴住世代記』）

とよだーほうじゅん 豊田法順

明治三十年（一八九七）ー昭和四十八年（一九七三）

山形市耕竜寺三十世、ハワイ禅宗寺五世、つがる市全龍寺二十一世。号は祖庭。明治三十年九月六日に青森県西津軽郡木造町大字蓮川に生まれる。受業師、本師は義学文

悟。曹洞宗大学林を卒業し管内布教師、横浜市西有専修学林教授、大正十五年(一九二六)には米ハワイ布教師、カワイ島禪宗寺を興し、日本学校を経営する。昭和十二年(一九三七)七月に帰国し梅檀中学教授、十八年四月より山形県嘱託として地方青年団や婦人会、その他の各種団体の指導啓発に努めた。昭和四十八年三月十八日に示寂した。(『洞門龍象要覽』)

とりうみーぜしょう 鳥海是祥

安政二年(一八五五)ー大正十年(一九

二一)

角田市長泉寺三十九世、一関市安昌寺二十二世。号は法觀。安政二年に仙台藩土遠藤玄眠の子として仙台に生まれる。受業師、本師は鳥海道悟。宮城県第三宗務所長、地方布教部委員などに就任し宗風の顕揚や改善に努めた。大正十年十月五日に六十七歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』)

とりうみーどうご 鳥海道悟

天保六年(一八三五)ー明治二十七年

(二八九四)

角田市長泉寺三十八世、一関市安昌寺二十二世、一関市龍門寺十五世。号は黙庵。陸中下折壁村に生まれる。受業師は玄珠、本師は旭指悦伝。弘化四年(一八四七)に万松寺の洞靈に、嘉永三年(一八五〇)には顯聖寺の禹功に、安政三年(一八五六)には天徳院の奕堂に参随した。五年に駒込梅檀林に入る。明治九年(一八七六)には本堂の再建に取り組み、十五年に完成した。

二十四年には本堂向拝の建造に着手しており、学徳兼備の人といわれた。明治二十七年七月三十日に六十歳で示寂した。(『長泉寺中興三十八世 黙庵道悟大和尚壹百回忌報恩法要

栗)

わ

わかつきーしゅうどう 若槻修道

明治四十年(一九〇七)ー平成十一年(二九九九)

安来市萬松院十四世。号は活禪。明治四十

年二月二十六日に鳥根県能義郡飯梨村に生まれる。本師は若槻歴道。昭和九年(一九三四)駒澤大学仏教学科を卒業し、曹洞宗研究生修了。宗議會議員、飯梨村村長、鳥根県會議員、鳥根県共同募金会会長、鳥根県社会福祉協議会会長、全国社会福祉協議会会長、鳥根県児童福祉審議会委員、長、教育民生部委員長などを務める。著書に『大乘經典の概説』『支那高僧伝』『阿毘達磨六足論の翻訳』がある。平成十一年十月十一日に九十三歳で示寂した。(『日本名刹名僧録』)

わかつきーりゅうでん 若槻隆田

明治元年(一八六八)ー昭和二十八年(二九五三)

兵庫東美囊郡高沢寺二十八世。号は心耕。明治元年三月二十日に長野県水上内郡安茂里村大字小芝見の村田要右衛門の三男として生まれた。受業師は櫻井隆光、本師は岸本大能。明治十六年(一八八三)八月より總持寺に安居し、十七年八月から富山県専門

支校に掛籍して卒業、三十一年より哲学館大学の仏教専修科及び漢学専修科を兼修し卒業した。布教師として管内布教に従事し、吉祥講、仏慈講、仏教青年会、仏教婦人会などを設立して組長及び布教部委員、郡内各宗協会評議員を務めた。昭和二十八年六月二十八日に八十八歳で示寂した。

〔曹洞宗名鑑〕

わかばやしーけんりょう 若林憲良

明治三十九年(一九〇六)ー平成九年(一九九七)

太田市長運寺二十三世、埼玉県秩父郡長慶寺。明治三十九年五月二十三日に埼玉県比企郡高坂村岩殿の若林照慶の四男として生まれる。受業師、本師は若守義孝。大正十三年(一九二四)三月に埼玉県立熊谷中学校を卒業、昭和七年(一九三二)三月に駒澤大学文学部東洋学科を卒業し、七年四月から十二年三月まで曹洞宗務庁に勤務、二十三年四月には太田東保育園を創設して園長に就任、三十年十二月にはなかよし幼稚園を創設し、園長に就任した。曹洞宗群

馬県宗務所長、保護司、民生委員、児童委員、調停委員、中学校PTA会長、群馬県保護司会副会長、太田保護区保護司会長などを歴任した。五十七年五月三日に太田市功労者表彰を受けた。平成九年六月一日に世寿九十一歳で示寂した。

わかばやしーぜんこう 若林禪光

文政六年(一八二三)ー明治三十五年(一九〇二)

富山市大川寺三十一世、富山市青龍寺。号は日山。文政六年四月三日に富山県上新川郡大山町田畠の金森市兵衛の長男に生まれる。受業師は悟庵大見、本師は天外白龍。明治二十五年四月十日に世寿七十歳で示寂した。

わかぶーこくえい 若生国栄

慶応元年(一八六五)ー昭和十八年(一九四三)

南丹市最福寺、宝塚市楊林寺、丹波市円通寺四十三世、桜川市伝正寺、三田市友松寺。号は形山。慶応元年に摂津国川辺郡富

松村の西村六輔の子として生まれる。受業師、本師は鷹尾国丈。明治八年(一八七五)に池田市大広寺の在田彦竜の随意会に安居、十年から漢籍を山田竜齋に学び、十四年心月院の芦浦黙応に随って学ぶ。加古川曹洞宗専門支校を卒業し、曹洞宗大学林を卒業。漢学を三島中洲に学ぶ。二十年島根県支校教師、二十二年京都支校教師、東京錦城中学校講師、高等中学林教授、二十九年台湾軍隊慰問使兼従軍布教使、三十五年曹洞宗宗務院主事を歴任、軍人布教師として布教に励み、韓国布教総監を務めた。三十九年曹洞宗准師家に認可され、円通寺に晋山開堂して雲衲接化に励んだ。四十五年水上郡各宗協和会長に就任。大正四年(一九一五)永平寺監院に任命され、五年の永平寺慶弔会式においては布教部総轄を務めた。著作は『寒山詩講義』『禪関策進講義』『仏説父母恩重経講話』『禅学正門单刀直入』などがあり、昭和十八年七月二十六日に七十九歳で示寂した。〔曹洞宗名鑑』『丹波人物志』

わかもりーぎこう 若守義孝

明治九年(一八七六)―昭和三十五年

(二九六〇)

熊谷市集福寺二十六世、東京都見性寺二十六世、太田市恵林寺三十一世。号は大典。

明治九年十月二十一日に埼玉県大里郡岡部村の若守孝嶽の長男に生まれる。受業師、本師は林石峰。明治三十八年(二九〇五)、東京帝国大学の文科大学哲学科を卒業、三十九年、曹洞宗第四中学校主任教諭、同宗教師検定委員を務め、四十四年八月より大正三年(一九一四)二月までドイツへ留学(ライプチヒ大学・ベルリン大学・イエナ大学で哲学を修める)、帰朝後、曹洞宗大衆学講師、十四年、駒澤大学教授、十七年には駒澤大学名誉教授となる。大正九年八月十七日に埼玉県曹洞宗第七宗務所管内布教師、十五年四月一日、埼玉県曹洞宗務所管内布教師、昭和十一年(一九三六)に授戒会、二十七年四月、永平寺高祖七百回大遠忌臨時後堂、二十八年には参禅道場師家に任ぜられた。昭和三十五年一月二十六日に世寿八十五歳で示寂した。『曹洞宗名鑑』

明治期以降曹洞宗人物誌(九)

『現代仏教家人名辞典』『曹洞宗現勢要覧』

わかもりーぎほう 若守義峰

明治十六年(一八八三)―昭和四十年

(二九六五)

深谷市正明寺二十二世。号は大恵。明治十六年十月一日に埼玉県大里郡岡部町岡部の若守孝嶽の二男に生まれる。受業師は中川絶方、本師は若守孝嶽。明治三十年(一八九七)から三十一年まで東京青松寺に安居、三十四年には群馬県富岡中学校を卒業。愛知県香積寺僧堂、新潟県大栄寺僧堂に安居した。昭和九年に農繁期季節保育所を開設し私財を投じて青少年団を結成して指導したことにより大里郡教育会より表彰され、二十四年から三十八年まで埼玉県第一宗務所第十九教区長、所会議員、監査委員を務め、司法保護司、岡部町立岡部小学校初代PTA会長を務めた。昭和四十年四月三日に八十二歳で示寂した。『洞門龍象要覧』

わかやまーうんぼう 若山運法

明治三十九年(一九〇六)―平成三年

(二九九一)

浜松市玖延寺二十一世、掛川市世楽院三十二世。号は呼山。明治三十九年一月十五日に愛知県海部郡富田村千音寺の若山市松の二男に生まれる。受業師は阿蔵寛宗、本師は阿蔵秀寅。昭和二年(一九二七)に曹洞宗第三中学校を卒業し、七年に駒澤大学文学部東洋科を卒業、同年より十一年まで總持寺に安居した。曹洞宗宗務院書記、宗議会議員、曹洞宗宗務庁社会部長、同財政部長、級階査定委員、曹洞宗会館査定委員、總持寺顧問、審事院長、總持寺財政審議会々長、静岡県仏教会々長などを務めた。また、天竜市教育委員長、市文化協会長、市文化財保護審議会委員長、人権擁護委員、二俣町教育委員長、總持寺学園監事、藤枝学園理事なども務めている。平成三年十一月三日に八十五歳で示寂した。『洞門龍象要覧』『曹洞宗現勢要覧』

わしおーぜんがく 鷲尾禪岳

一 明治三十三年(一九〇〇)

福岡市金龍寺三十二世、宗像市秀圓寺十二世。号は宗亨。本師は朝雲得龍。明治三十三年一月十一日に示寂した。

わじまーたいじゅん 和島泰順

明治十二年(一八七九)一 昭和十六年(一九四一)

鶴岡市長徳寺三十九世。号は普門。明治十二年九月四日に生まれ、受業師、本師は観戒泰音。吉峰寺の田中仏心に参随し、方面委員として社会事業に貢献した。昭和十六年五月十四日に六十二歳で示寂している。

わだーじおん 和田慈穩

弘化三年(一八四六)一 大正八年(一九一九)

大田市正寿寺四世、門真市黄梅寺十六世、丹波市瑞光寺、関市龍泰寺四十七世。号は仏国。弘化三年五月二十八日に関市下有知村に生まれる。本師は仏乘慈僊。安政六年(一八五九)八月二十八日に剃髪受具し、

明治元年(一八六八)に笠神村の大禪寺の

結制で首座を務め、三年正月三十一日に仏乘慈僊の室に入って嗣法した。正寿寺、黄

梅寺、瑞光寺を経て三十九年一月十二日に龍泰寺住持となり、同年四月五日に晋山開

堂を行った。龍泰寺専門僧堂を開単し、多くの龍象が輩出した。大正二年(一九一

三)には龍泰寺を退院したが、その後も師家として大衆の指導に当った。八年十二月

二十六日に世寿七十四歳で示寂した。(『美濃国禅雲山龍泰寺史』)

わたなべーえつうん 渡辺越雲

明治三十年(一八九七)一 昭和三十九年(一九六四)

横浜市貴雲寺二十六世。明治三十年五月二日に横浜市港北区岸根町に生まれる。本師は高橋越学。宗務所所会議員、教区長、官内布教師を務め、民生委員、児童委員、赤十字奉仕団岸根町団長、防犯協力会岸根地区会長、市防火協会岸根町会長なども務めている。昭和三十九年十一月十日に六十七歳で示寂した。(『洞門龍象要覧』)

わたなべーえりん 渡辺慧麟

慶応二年(一八六六)一 昭和三年(一九二八)

山形県最上郡清林寺二十八世、尾花沢市葉師寺十九世。号は仁翁。慶応二年四月二十日に山形県朝日町送橋の渡辺家の二男に生まれる。受業師は齊藤祖亮、本師は後藤文道。吉岡信行、西有穆山に参随している。

明治十五年(一八八二)八月に山形県第一号専門支校に入学し、十九年五月に同校を卒業、昭和三年十月十六日に六十三歳で示寂した。

わたなべーかくうん 渡辺鶴雲

明治八年(一八七五)一 昭和二十二年(一九四七)

下関市高林寺十七世、京都市智福院。号は閑外。明治八年九月十五日に大分県宇佐郡四日市町の渡辺武右エ門の三男に生まれる。受業師、本師は溪巖雪橋。明治二十五年(一八九二)から二十八年まで長野県大沢寺に安居、二十九年から三十二年まで堺市紅谷庵に安居、三十六年七月には曹洞宗

大学林第一部第一学年を修業した。自坊に日曜仏教講話を開始し、雑誌「法の都」を発行すること六年、宗門宣揚に努めた。その他、曹洞宗議会議員、管内布教師も務めている。昭和二十二年十一月十日に七十三歳で示寂した。(『曹洞宗名鑑』『現代仏教家人名辞典』『曹洞宗現勢要覧』)

わたなべーがせん 渡辺畫仙

明治六年(一八七三)―昭和二十年(一九四五)

飯山市常福寺、長野県上高井郡岩松院二十六世。号は大芳、雅号は如是。明治六年四月二十日に長野県下水内郡太田村小境の阿部弥吉の三男として生まれる。本師は天龍畫橋。明治二十六年(一九一三)七月十日曹洞宗大学林に入学、三十年七月二十八日に卒業。總持寺、永平寺に安居、二十八年より茨城県第二十七中学林にて教鞭を執り、三十二年より三十四年まで長野県第五中学林教授及び監督を務めた。三十三年に長野県尼僧学林を創設し、林長を十年間務めた。また両本山布教師、宗議会議員とし

て活躍した。著書に『曹洞宗檀信徒禮佛誦經集並安心起行鈔』があり、『曹洞宗安心問題論纂』において、論説の「宗体の宗用を論ず」と他二篇で安心問題の見解を述べている。昭和二十年三月二十二日に七十二歳で示寂した。(『現代仏教家人名辞典』『仏教年鑑』昭和六年版『宗教年鑑』昭和十四年版)

わたなべーげつしょう 渡辺月正

明治四十二年(一九〇九)―昭和五十九年(一九八四)

愛西市一心寺十七世、愛西市正泉寺二十三世。号は六窓。明治四十二年九月八日に神奈川県横須賀市若松町に生まれる。受業師、本師は渡辺亮雲。昭和八年(一九三三)に駒澤大学文学部仏教学科を卒業、善篤寺僧堂、覚王山僧堂、永平寺僧堂に安居し、二十一年から二十四年まで覚王山日蓮寺僧堂講師を務める。二十九年から三十八年まで管内布教師に任ぜられた。四十四年には愛知県第一宗務所の教化主事を務め、四十五年永平寺名古屋別院の単頭を経て

後堂を務めた。宗外においては仏教会会長、民生委員、村社会福祉協議会理事、保護司、村子供会協議会長、青少年輔導員などを務めており、また、新聞などの宗教欄に長期にわたって執筆した。示寂後に永平寺名古屋別院より「贈別院監院」号を贈られた。昭和五十九年十一月九日に七十五歳で示寂した。(『曹洞宗現勢要覧』『八開村史』通史編)

わたなべーけんがい 渡部賢外

明治二十年(一八八七)―昭和二十六年(一九五一)

北海道空知郡祥雲寺四世、佐渡市高安寺十九世。号は教熙、湘山。明治二十年二月五日に新潟県佐渡郡河原田本町の中堀立省の二男に生まれる。受業師、本師は佐久間少量。伊藤弥太、有田法宗に参随する。明治三十三年(一九〇〇)兵庫県の円通寺認可僧堂に安居、原宣明について漢籍及び宗乘を学んだ。三十九年三月より永平寺に安居し、四十二年には、本山の命により北海道開教の任に当り、四十四年に説教所公設を

許可される。石狩上川、天塩上川の二郡合同仏教伝道会布教員、多寄仏教団の理事、風速尋常高等小学校少年団評議員、名寄町料理屋組合矯風会嘱託講師などに就任し、社会公共事業に従事して功労が多い。昭和十一年（一九三六）五月に祥雲寺先住（三世）が転出した後、寺号公称に努め、二十一年七月に認可を得た。渡辺玄宗禪師を拜請して總持寺の直末となり、二十三年退董し二十六年十一月十一日に示寂した。（『曹洞宗名鑑』『曹洞宗北海道寺院誌』）

わたなべーげんしゅう 渡辺玄宗

明治二年（一八六九）ー昭和三十八年（一九六三）

富山市報恩寺、富山市光嚴寺、金沢市大乘寺、總持寺独住十七世。明治二年十月二十五日に新潟県三島郡日吉村に生まれる。受業師、本師は渡辺俊竜。東京哲学館仏教専修科を卒業し、その後比叡山にて天台学を研修。永平寺、可睡齋などに安居、明治四十年（一九〇七）三月より四十五年七月まで鎌倉の臨濟宗の円覚寺僧堂に安居した。

三十五年報恩寺に首先住職、大正元年（一九一二）に光嚴寺住職、昭和二年（一九二七）に大乘寺住職となり、同年から翌三年まで永平寺副監院、四年七月まで永平寺後堂、十七四月より宗機審議会委員、師家、第四専門僧堂長、十八年四月に總持寺西堂、十九年二月に總持寺貫首となる。二十五年に懸案であった師家養成機関を開設し七十余名を実参させた。三十二年に總持寺祖院に隠棲し、三十八年十二月九日に九五歳で示寂した。（『玄宗禪師を偲びて』『無』『渡辺玄宗禪師記録覚』）

わたなべーこくえい 渡部国永

明治十八年（一八八五）ー昭和三十四年（一九五九）

鶴岡市万福寺十五世、鶴岡市大儀院。号は介守。明治十八年二月二十五日に山形県東田川郡朝日村の渡部国珠の長男として生まれる。受業師、本師は渡部国珠、涉谷元恵に参随する。東洋大学倫理東洋文学科を卒業し、小樽市竜徳寺會計係、宗務所弁務、樺太開教監督部書記、小樽豊川妙嚴寺吒枳

尼尊天分靈所建設、荘内仏教慈済会評議員、教区長、山形県仏教会支部長、布教委員などを務めた。その他、山形県教化連盟委員、方面委員、民生委員、常務委員、山形県少年教護委員、司法保護委員、保護司なども務めた。昭和二十五年（一九五〇）には多年犯罪予防尽瘁の功績によって感謝状を受けており、三十四年七月九日に七十五歳で示寂した。（『曹洞宗現勢要覧』）

わたなべーじつゆう 渡辺実雄

天保十三年（一八四二）ー明治三十年（一八九七）

長久手市前能寺、岐阜県不破郡禅幢寺、堺市紅谷庵三世。号は大安。天保十三年三月十五日に周防に生まれる。受業師は実音、本師は頑応俊童。白鳥鼎三に十四年間、久我環溪に十五年間参随した。慶応三年（一八六七）に尾張国の法持寺の鼎三下で立職し、翌年一月には岐阜県禅幢寺の頑応俊童の法を嗣いだ。明治三年（一八七〇）に總持寺で瑞世しており、その後、永平寺の後堂を務め、二十九年には特命監院に就い

た。三十年九月に全国寺院へ「宗祖承陽大師六百五十回忌勸化簿」を出して大遠忌の準備に尽力した。明治三十七年十一月十八日に世寿六十四歳で示寂した。(「菩提樹」第二十三号、「傘松」第四九六号)

わたなべーしやくぎょう 渡辺石橋

明治十七年(一八八四)―昭和四十一年(一九六六)

高崎市仁叟寺二十九世、高崎市龍源寺二十五世。号は雲巖。明治十七年十月二十二日に群馬県多野郡万場町に生まれる。本師は渡辺海雲。世田ヶ谷中学校を卒業、雙林寺専門僧堂に安居する。後に宗務所級階査定会委員、宗務所長、教区長、教区指導員、宗会議員を務め、その他、日野村小学校、多胡小学校の教師を務め、多野郡各宗協合理事、庶務保護主任、同副会長、会長、司法保護委員長、全日本司法保護連盟評議員、司法保護常務委員、少年教護委員、仏教連合会支部理事、同常務理事、泉融和会顧問、多野郡教員会評議員、方面委員、裁判調停委員、民生委員顧問なども務めた。

明治期以降曹洞宗人物誌(九)

昭和四十一年二月三日に八十三歳で示寂した。(「曹洞宗現勢要覧」)

わたなべーじやくたん 渡辺寂潭

―明治三十九年(一九〇六)

氷見市延暦寺十七世、氷見市観音寺開山。号は卍龍。本師は仰山泰栄。富山県尼僧学林の創設者で總持寺副監院を務めた。明治三十九年五月十五日に示寂した。(「明教新誌」第一六八四号)

わたなべーしゅうこう 渡辺周孔

―明治三十年(一八九七)

田原市伝法寺二十二世。号は丘鳳。愛知県渥美郡田原町萱町の渡辺長五郎の子に生まれる。明治三十年十一月二十三日に七十七歳で示寂した。

わたなべーしゅうみょう 渡辺秀苗

―昭和十四年(一九三九)

長野県下高井郡泉龍寺二十世。号は全性。長野県飯山市山岸比賀野家に生まれる。本師は一角童麟。曹洞宗大学を卒業し帰山後

には泉龍寺の本堂庫裡、衆寮を再建した。昭和十四年四月三日に六十七歳で示寂した。

わたなべーしゅんりゅう 渡辺俊龍

天保三年(一八三二)―明治三十七年(一九〇四)

富山市光嚴寺四十一世、長野県下高井郡泉龍寺十八世、長野県下高井郡宝勝寺。号は月潭。天保三年十一月二十六日に上野国多胡郡小暮村の渡辺寅松の二男に生まれる。受業師、本師は興山画龍。弘化二年(一八四五)宝積寺道錦の常恒会に安居し、嘉永三年に吉祥寺に安居し、無学愚禪に参随。明治七年(一八七四)五月、長野県曹洞宗務支局教導副取締、十二月に長野中院院視察出仕、八年、東京神道諸宗大教院録事見習出仕、九年六月長野県第一号曹洞宗専門支校教師、十七年説教講習員、十八年十二月長野県第一号曹洞宗務支局管理者教導取締、二十四年四月より曹洞宗議会議員、二十五年三月より長野県第一号曹洞宗録所長を務めた。三十七年九月五日に七十三歳で

示寂した。〔『水月音容』『洞門二十五哲』〕

わたなべーしんりゅう 渡辺眞龍

明治三十九年(一九〇六)―平成七年

(二九九五)

東京都宗清寺二十九世。号は大淵。明治三十九年九月十七日に生まれた。駒澤大学文学部仏教学科を卒業し、宗務院書記、同教学校学監に就く。平成七年五月十二日に八十八歳で示寂した。〔『洞門龍象要覧』〕

わたなべーせいがん 渡部清巖

明治三年(一八七〇)―昭和三十六年

(二九六一)

出雲市神光寺三十六世、出雲市文珠院、出雲市薬師寺。号は天庵。明治三年二月二十五日に島根県仁多郡横田町八川の藤原家に生まれる。受業師、本師は渡部露庵。明治二十一年(一八八八)に曹洞宗専門支校を卒業し、二十三年に曹洞宗高等中学林に入學、その後大学林に学んだ。東京都の長谷寺に安居し、二十六年に文珠院住職とな

る。三十年、島根県簸川郡荒木村小学校訓導、三十三年八月東京各宗協立慈育小学校長に招聘され、三十五年に薬師寺に住職し、三十九年に神光寺三十六世となった。

四十年より育児感化事業である松江家庭学院杵築の支部長となって以来、宗務所長、布教部委員長なども務めている。昭和三十六年一月二十八日に九十二歳で示寂した。

〔『曹洞宗名鑑』「不老」第十七号〕

わたなべーぜしゅう 渡辺是笑

慶応元年(一八六五)―昭和二十年(一九四五)

(九四五)

新潟県南蒲原郡東龍寺二十世、五泉市正音寺十九世、新発田市禅定寺二十四世。号は黙拳。慶応元年九月二十日に新潟県中蒲原郡亀田町の渡辺家に生まれた。受業師、本師は溝口大善。明治十六年(一八八三)、溝口大善の常恒会にて立職し、十七年に溝口大善の室に入って嗣法、二十二年に曹洞宗大学林を卒業し、二十三年に正音寺において結制初会、その後、禅定寺住職を経て、大正十三年(一九二四)に東龍寺に住

職する。同年、總持寺貫首新井石禪を戒師に拝請して報恩授戒会を務める。昭和二十年四月二十五日に世寿八十歳で示寂した。

〔『東龍寺寺報』第六号〕

わたなべーせつこう 渡部説康

大正十一年(一九二二)―平成十年(一九九八)

(九九八)

出雲市神光寺三十七世。大正十一年八月三十一日に島根県簸川郡大社町に生まれた。

本師は渡部清巖、駒澤大学文学部東洋学科を卒業して大洞院僧堂に安居。布教化審議会委員、級階査定委員、島根県第二宗務所管内布教師、雲国両山会顧問、宗議会議員などを務めた。その他、大社町仏教会々長、保護司、大社町史編纂協力委員、大社町社会福祉協議会評議員なども務めている。平成十年八月十二日に七十五歳で示寂した。〔『曹洞宗現勢要覧』「宗報」第七五七号「傘松」第六六〇号〕

わたなべーぜんかい 渡辺禅戒

―明治二十八年(二八九五)

東松山市萬松寺二十世、山梨市信盛院。号は慧濤。神奈川県高座郡松林字赤羽に生まれる。末派総代委員として宗門の政務、事務に尽力された。明治二十八年十月四日に世寿五十一歳で示寂した。(『洞上高僧月旦』)

わたなべーそがく 渡辺祖嶽

一明治四十四年(一九一〇)

豊田市永沢寺三十世。号は任宗。尾張国名古屋大津町の渡辺教治の子として生まれる。本師は大棟任梁。明治八年(一八七五)七月二十三日に永沢寺の住職となり、十八年に本堂などの再建に着手し、四十四年十月六日に示寂した。(『能本山上申書』)

わたなべーたいげん 渡辺太原

安政五年(一八五八)一明治二十六年

(一八九三)

加古川市万福寺十三世。号は本光。安政五年三月十一日に兵庫県加古川市志方町東町の竹中弥左衛門の二男に生まれる。受業師、本師は渡辺大疑。明治五年(一八七

二)より十五年迄慈眼寺僧堂に安居、明治二十六年旧三月二日に三十五歳で示寂した。

わたなべーたいじょう 渡辺秦城

弘化三年(一八四六)一明治四十二年

(二九〇九)

日進市薬師寺、日進市龍谷寺、小牧市正眼寺四十三世。号は瑞巖。弘化三年七月十五日に愛知県の渡辺秋綱の子として生まれる。受業師は千忠、本師は千峰。文久二年

(一八六二)夏、見性寺玄峰の下に安居、

同年八月、精明寺の良儀の下に安居する。

明治元年(一八六八)冬、龍谷寺の良傳下

に安居、四年五月に總持寺で転衣、二十五

年二月、在田彦龍とともに曹洞宗より總持

寺の独立と末派分割を總持寺に建言する。

その後、安達達淳とともに曹洞宗革新会の

顧問となる。能山分離を計り、二十六年十

二月に正眼寺住職を罷免されたが、二十七

年十二月三十一日には宗内紛争が終結し、

罷免は解かれた。明治四十二年九月七日に

示寂している。(『現時二十五哲』)

わたなべーたんざん 渡辺丹山

明治二十四年(一八九一)一昭和十七年

(二九四二)

新潟県岩船郡雲泉寺二十六世。号は月峰。

明治二十四年十二月十日に新潟県中蒲原郡

越岡村字大迎の後藤長吉の長男として生ま

れる。その後、中蒲原郡大江山村字大淵の

渡辺良太郎の養子となる。本師は土屋貫

道。大栄寺専門僧堂に安居した。昭和十七

年十二月十日に五十三歳で示寂した。

わたなべーばいゆう 渡辺模雄

明治二十六年(一八九三)一昭和五十三

年(一九七八)

江津市福応寺二十三世。明治二十六年二月

九日に島根県邑智郡市山村大字江尾の渡辺

辨龍の長男として生まれる。受業師、本師

は渡辺辨龍。大正十二年(一九二三)、東

京帝国大学大学院の印度哲学科を修了し、

駒澤大学教授、東洋大学教授、立正大学教

授、南方派遣司政官、文部省嘱託文部省事

務官、鶴見女子大学学長、總持学園長を務

める。同年十月、東洋大学教授、十三年曹

洞宗大学講師、十四年より昭和十七年まで駒澤大学教授。十五年四月より昭和三年（一九二八）三月まで、宗命により印度哲学研究のため欧州留学、二十四年六月より三十一年まで文部事務官の「宗務担当」を務めた。三十一年十二月に日本大学教授、三十二年四月には千葉大学講師、三十六年四月より三十八年九月まで日本大学大学院教授、四十三年四月より四十四年三月まで北日本学院大学教授、副学長、四十四年四月より五十一年十月まで總持学園長、鶴見女子大学長、同短期大学長、同高等学校校長、同中学校長、三松幼稚園長などを務めた。常済大師六百五十回大遠忌中には臨時西堂を務め、五十三年四月には總持寺西堂となり、總持学園名誉学園長となった。著作は『佛陀教説の外従』『雜阿含經、雜尼柯耶の研究』『佛陀の教説』『小乗佛教』『根本佛教の精神』『有部阿毘達磨論の研究』『法華經を中心としての大乗經典の研究』『お釈迦様とそのみ教え』『ある老佛教学究の記録』『東南アジアの民族と宗教おぼえ帳』『上代インド佛教思想史』などが

あり、五十三年四月十八日に八十五歳で示寂した。（『洞門龍象要覽』『跳龍』第三五九号、『大亀山福応寺史』）

わたなべーはくぜん 渡辺白禪

天保二年（一八三一）ー明治二十五年

（二八九二）

江津市福応寺二十世、江津市日笠寺十一世。号は無得。天保二年五月三日に島根県邑智郡谷住郷村の本原忠三郎の二男に生まれる。受業師、本師は禪峯良門。嘉永二年（一八四九）三月より安政三年（一八五六）まで敦賀の永建寺に安居し、甘雨為霖に隨身する。権少講義、江尾小学校教員、宗務副取締などを務めた。明治二十五年二月六日に六十二歳で示寂した。（『桜江町史』『大亀山福応寺史』）

わたなべーひやくじゆん 渡辺百淳

ー昭和六年（一九三一）

大田市円光寺二十六世、大田市瑞巖寺十八世。号は古道。島根県那賀郡江津の高嶋家に生まれる。受業師は滴水百流、本師は百

納玄秀。円光寺の本堂を建立し再中興となり、總持寺再建本部に勤務した。昭和六年一月二十二日に五十九歳で示寂した。

わたなべーふざん 渡辺斧山

ー明治三十年（一八九七）

丹波市興禪寺十一世、丹波市普蔵寺十六世、丹波市（春日町）観音寺、丹波市（青垣町）観音寺。号は響應。兵庫県多可郡鳥間村に生まれる。明治二十九（三十）年十月六日に六十四歳で示寂した。

わたなべーべんしゅう 渡辺辨宗

明治五年（一八七二）ー昭和二十年（一九四五）

彦根市長松院二十五世、奈良県吉野郡運川寺、松阪市桑源寺、八王子市永昌院。号は大應。明治五年三月十五日に福井県永平寺町に生まれる。受業師、本師は石川素童。昭和二十年一月十三日に示寂した。

わたなべーりょううん 渡辺亮雲

慶応三年（一八六七）ー昭和十二年（一

九三七)

小田原市福厳寺、小田原市香林寺、愛西市一心寺十六世、町田市大泉寺三十七世。号は大景、赤水道人とも称した。慶応三年に愛知県八開村鶴多須の横井家の三男として生まれる。受業師、本師は渡辺悦雲。永平寺に安居する。福厳寺に初住した後、香林寺へ移る。明治三十三年(一九〇〇)十二月五日に大泉寺へ転住、その後、一心寺に転住した。昭和十二年十二月二十九(三十)日に七十二歳で示寂した。〔『現代仏教家人名辞典』〕

わたなべりようこう 渡辺良光

明治十七年(一八八四)―昭和四十年

(二九六五)

小牧市長林寺十世。号は看山。明治十七年八月六日に海部郡佐織村に生まれる。第三中学林副学監、宗務院書記、宗務院人事部長秘書兼任、宗務所贊事、宗務所長、教区長、代表教区長、曹洞宗総動員道府県鍊成大会総務を務める。その他に方面委員を務め、西春日井郡仏教会長、戦完遂軍人援護

調査委員、金銭債務調停委員、司法保護委員、借地借家小作商事金銭債務臨時鈷害民事特別調停委員、児童福祉審議会委員などを務めた。昭和四十年六月二十四日に八十二歳で示寂した。〔『曹洞宗現勢要覧』〕

わたなべりいじゅん 渡辺靈潤

―明治三十七年(一九〇四)

福井県大飯郡海元寺二十七世、小浜市妙徳寺三十一世、福井県大飯郡仏燈寺三世。号は法霖。福井県三方郡三方町世久見の渡辺市左エ門の子に生まれる。明治三十七年一月二日に示寂した。〔『面山和尚法孫系譜并門人考』〕

わたらいーげんこう 渡会元孝

―昭和三年(一九二八)

函館市高岸寺二世、酒田市光岩寺。号は戒雲。山形県酒田市に生まれる。昭和三年十月八日に四十二歳で示寂した。

わたらいーじようこう 渡会定孝

嘉永三年(一八五〇)―明治三十二年

(二八九九)

福島県田村郡太桂寺、酒田市光岩寺三十世、鶴岡市石門院七世、鶴岡市宝円寺十一世、鶴岡市太春院二十九世、函館市大竜寺二世、函館市高岸寺、鶴岡市福寿寺十八世、鶴岡市少林院十二世。号は全提。嘉永三年五月六日に鶴岡町の渡会佐忠の三男として生まれる。受業師、本師は渡会出定。

慶応元年(一八六五)より瑞龍寺の織田雪巖、天徳院の諸嶽奕堂、祇陀寺の絶三、大乘寺の田中佛心らに参随。二年夏、卍定の会にて立身、四年六月二十八日に嗣法する。八月、太桂寺に首先住職し、十一月一日、永平寺にて転衣、十一月二十五日に参内して御諭旨を拝受する。明治二年(一八六九)一月、東京の梅檀林に入學し、翌春、師命によって鶴岡へ帰り、四年四月、石門院に転住した。五年十一月十五日、宝円寺に転じ、七年十一月四日に太春院に転住、八年十月八日、光岩寺に転じて、経蔵、庫裡などを再建する。十五年七月、再び志を発して東京の大学林で学び、十九年二月には函館の檜法華村の新地に一字を建

立し、恵雲山大竜寺と公称した。尻岸内村にも新寺を建立し、東雲山高岸寺と称した。二十年には北見礼文利尻等の奥地まで

十七歳で示寂した。(「釈氏八十七代正太孝大和尚行歴」)

足を運び布教している。二十二年秋、光岩寺に帰ったが、二十七年七月の酒田地震によって堂宇が破損し修復した。二十九年九月六日には少林院に転じ、三十二年六月、福寿寺に転住して九月二十日に五十一歳で示寂した。(松本十郎記「承陽第三十五祖全提定孝禪師伝」)

わたらいーだいこう 渡会大孝

明治十六年(一八八三)―昭和四年(一九二九)

酒田市光岩寺三十三世、鶴岡市福寿寺十九世。号は正。明治十六年二月三日に鶴岡町二百人町渡会の渡会定孝の長男として生まれる。受業師は渡会定孝、本師は百瀬徳倫。操山月窓、山本法泉、新井石禪、福山黙堂、陸鉞巖、佐々木珍龍らに随侍する。

明治三十八年(一九〇五)一月二十六日より最乗寺の石川素童に随侍し、四十二年に光岩寺に晋住する。昭和四年一月十日に四